

熊本 卓哉¹

¹武蔵野大薬

FIP (International Pharmaceutical Federation, 国際薬学連合) は 1912 年に設立され, 世界の 132 の団体会員と, 300 万人の薬剤師・薬学研究者の会員を擁している. 本会は実務部門 (BPP) と薬科学部門 (BPS) を中心に活動して来たが, さらに薬学教育の発展を目指した *FIPEd* が第三の柱として 5 年を経ている. 本会は「薬の適正利用」を目標に掲げ, この 3 本の柱が協調し, WHO や UNESCO とも連携し発展していくことを通じて, 全世界的な健康の増進に寄与することを目指している.

エビデンスに基づいた医療の確立には薬科学研究の発展が重要である. これまで実務の活動を背景に注力してきた FIP も薬科学の研究と教育を重要視しており, 2015 年に開催された第 75 回国際会議では, “Better practice - Science based, evidence driven” と題し, より質の高い実務に向けた薬科学研究の貢献について議論した. さらに *FIPEd* が創薬人材の育成に向かって大きく舵を切ったことは注目される. 日本薬学会は, FIP の薬科学系団体会員として FIP における薬科学重視の姿勢を牽引・支持し, トレンドセッターとして大きな貢献をして来た. 一方, FIP に見られる薬科学のグローバルな潮流の変化を伝えるべく, FIP を紹介するフォーラムを例年開催して来た. 本年会では, 鈴木洋史氏 (東大病院薬, BPS SIG on PK/PD and System Pharmacology 副議長) より FIP における薬科学分野の重要性及び 2017 年にストックホルムで開催される薬科学国際会議について, さらに薬物動態や個別化医療の分野を中心に活躍される 3 先生方より, それぞれの研究活動やその周辺について紹介していただく.